

| | |
|-------------|---|
| Title | A design of supporting mechanism to advance student learning in international distance education(Abstract_要旨) |
| Author(s) | Lin, Wei-Jane |
| Citation | Kyoto University (京都大学) |
| Issue Date | 2009-09-24 |
| URL | http://hdl.handle.net/2433/126469 |
| Right | |
| Type | Thesis or Dissertation |
| Textversion | none |

(論文内容の要旨)

本論文は、国際遠隔講義に適した教授法とそれを支援する情報システムの提案および提案したシステムを利用した国際遠隔講義の授業実践結果をまとめたもので、全7章から構成されており、それぞれの章の内容は以下のとおりである。

第1章は序論であり、本研究の概要を述べ、国際遠隔講義の目的およびその意義について議論している。

第2章では、国際遠隔講義に適した教授法とそれを支援する情報システムについて関連研究をサーベイして考察している。

第3章では、授業設計という視点から、国際遠隔講義においては、学習活動、プロジェクトベース学習、ブログの3つの組み合わせが支援メカニズムとして重要であるというアイデアについて説明し、本論文の全体の構成と各章の概要について説明している。

第4章では、国際遠隔講義に学生を積極的に参加させるための学習活動を設計し、実際に行われた国際遠隔講義に対して実践した結果について述べている。学習活動の適切な設計と授業への導入が学生の参加意識を高める効果があった反面、教師の負担が重くなることが検証されている。

第5章では、実際の国際遠隔講義に教授法としてプロジェクトベース学習を取り入れ、情報技術による様々な支援を行ってその効果を評価している。国際遠隔講義に適した授業設計を行うことで、学生の参加意識が高まりインタラクションの回数が増え、質が向上したことを検証している。

第6章では、個人、グループ、クラスの3階層のブログを構築し、プロジェクトベース学習に併用して学生のインタラクションに基づく学習活動の統合化を目指している。実際に国際遠隔講義で実践を行い、設計したように学習活動、教授法、情報技術が統合化された支援メカニズムとして有効に機能していることを検証している。

第7章は結論と今後の課題について述べている。

(論文審査の結果の要旨)

本論文は、国際遠隔講義に適した教授法、それを支援する情報システムの提案および、提案したシステムを利用した国際遠隔講義の授業実践結果をまとめたもので、得られた成果は以下の3点である。

1. 国際遠隔講義においては、学生の動機を高めることが重要であり、そのために教師と学生、学生と学生のインタラクションを情報技術で支援する必要がある。インタラクションを促すための学習活動としては、発表や協調学習、オンラインでの討論などが考えられ、学生の積極的な参加が求められる。実践の結果、情報技術を適切に活用して、学習活動を活発化することにより、教師や学生とのインタラクションが増加し、学生が同じ教室にいるという感覚を増強でき、授業への参加意識が高まることが実証できた。
2. 学生のインタラクションを授業に組み込むための教授法としてはプロジェクトベース学習法が適する。これにより、遠隔地の学生同士が自然にグループを組み協調して同じ課題に挑戦することで、遠隔地の学生間のコミュニケーションが促進されることを実践により確認した。この実践では、さらに、文化の幅広さが学生の学習に良好な影響を与えることが確認できた。
3. 国際遠隔講義においては、複数の目的、動機、役割、文化をもった学生たちがインタラクションを行うことになる。このインタラクションを支援する情報システムとして、個人、グループ、クラスのレベルの異なる3つの階層をもつブログシステムを設計開発した。国際遠隔講義において、このブログシステムを活用した結果、学生の考えを構造化し、学習を深化することができることを確認できた。

以上のとおり、本論文は国際遠隔講義をフィールドとして教授法に基づいた情報システムの構築とそれを活用した授業実践結果について議論しており、当該学術分野に対して寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（情報学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成21年8月24日に実施した論文内容とそれに関連した試問の結果合格と認めた。